

GMB株式会社

2021年3月期第2四半期 決算説明資料



ITM(Integrated Thermal Management Module)

証券コード 7214

<https://www.gmb.jp>

注) 本資料中、当社の業績等に関わる数値は、表示桁数未満切捨て記載しております。
また、「親会社株主に帰属する(当期)純利益」を「純利益」として表示しております。



- I. 2021年3月期上期実績
- II. 2021年3月期通期見通
- III. 今後の対応

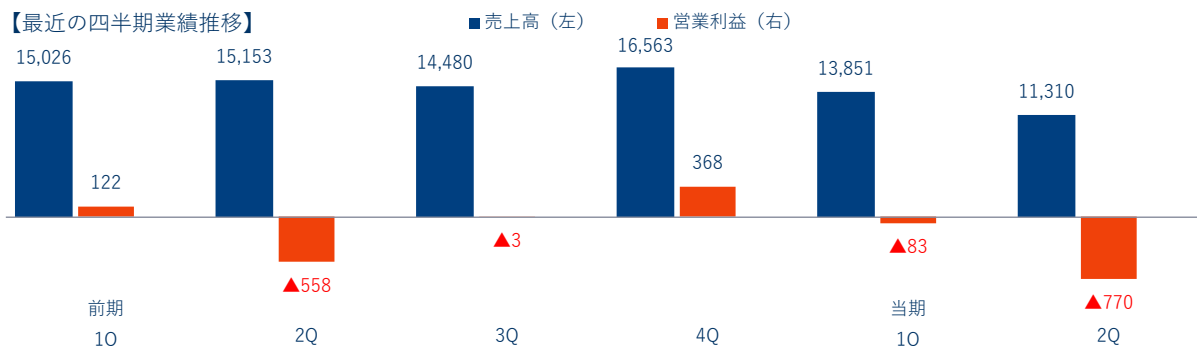
2021年3月期上半期 損益実績



(単位：百万円・%)

	前期1-2Q累計		当期1-2Q累計		前期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	増減額	増減率(%)
売上高	30,179	(100.0%)	25,162	(100.0%)	▲5,016	(▲16.6%)
売上総利益	4,400	(14.6%)	3,765	(15.0%)	▲634	(▲14.4%)
営業利益	▲435	(▲1.4%)	▲854	(▲3.4%)	▲418	(-)
経常利益	▲446	(▲1.5%)	▲1,001	(▲4.0%)	▲554	(-)
純利益	▲564	(▲1.9%)	▲521	(▲2.1%)	42	(-)
EPS(円)	▲108.12		▲99.54			

【最近の四半期業績推移】

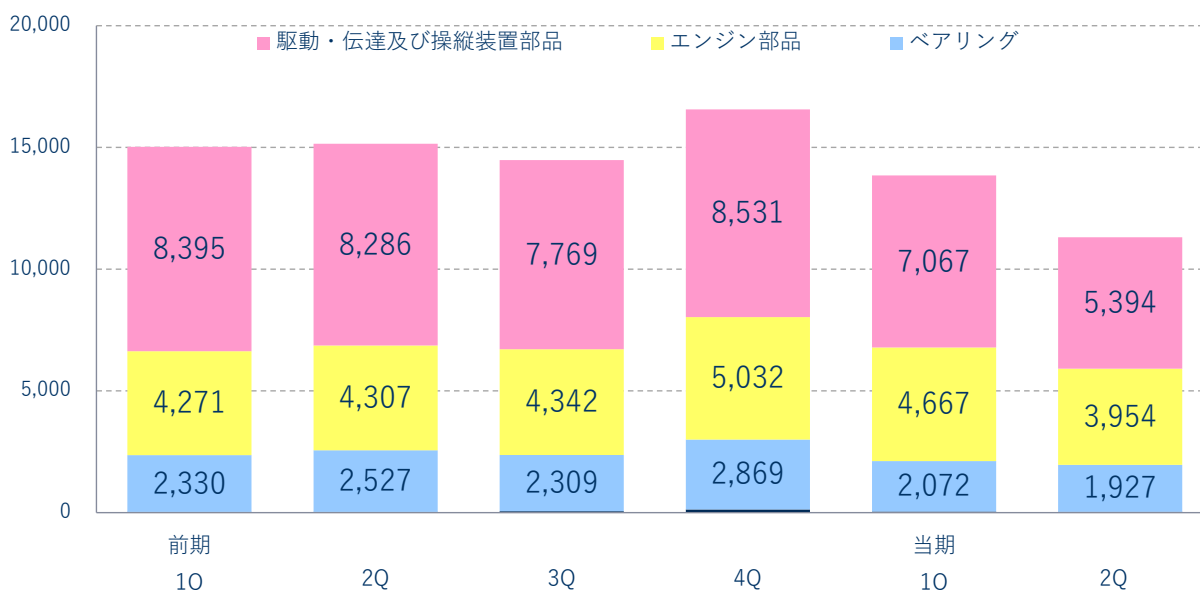


- 3 -

売上高の品目分類別推移 (四半期毎)



(単位：百万円)



駆動系では、韓国の新車用のバルブスプール、欧州の新車用ユニバーサルジョイントが減少。エンジン部品は、欧州向け新車用ウォーターポンプは減少したが、米国の補修用ウォーターポンプや韓国の新車向け電動ウォーターポンプは増加。ベアリングは、補修用のテンショナー・アイドル・ベアリングなどの販売が減少。

- 4 -

セグメント実績推移①

日本・米国

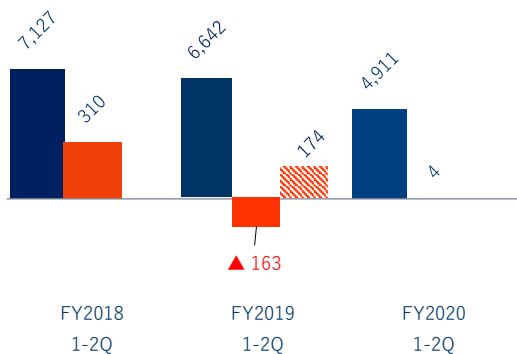


※セグメントはグループ各社の所在地による

(単位：百万円)

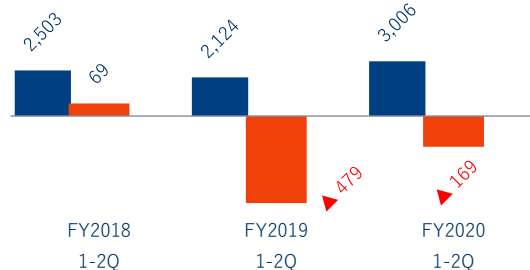
日本

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益(※)
※役員退職金を除いた参考値



欧州向けの新車用ユニバーサルジョイントや、東南アジアを中心とした補修用部品の販売減少により減収。一方、販売減少による影響を、コストダウン努力で一部吸収し、黒字維持。(前期は役員退職金の影響大)

米国



新型コロナウイルス感染拡大の影響が軽微であり販売が順調に推移した結果、増収。競争環境を反映して収益力に課題は残るが、当期は前期に発生した売掛金や棚卸資産等の評価に伴う費用増加の影響が無いため赤字幅は縮小。

セグメント実績推移②

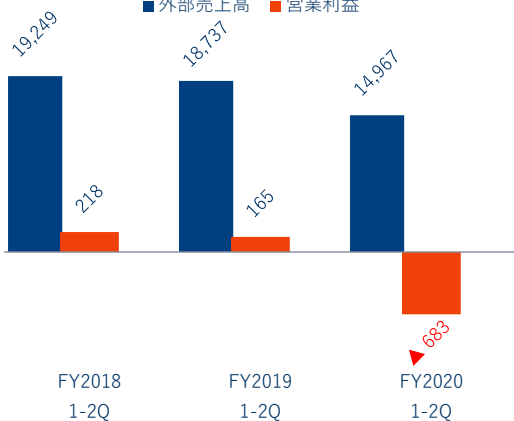
韓国・中国



(単位：百万円)

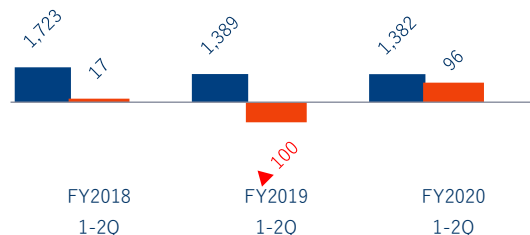
韓国

■ 外部売上高 ■ 営業利益



新車用の電動ウォーターポンプは前年同期比で伸びたものの、完成車需要の減少の影響で工場が一時稼働停止するなどし減収。また、販売の減少や販売価格の変動などをコスト削減努力で補いきれず赤字転落。

中国



2月は工場稼働停止するも、以降は中国国内の自動車販売回復の影響や、以前より進めていた中国国内部品メーカー向けの受注が増加するなどし増収。利益面では政府の公的経営支援やコストダウンなどにより黒字転換。

セグメント実績推移③ タイ・欧州

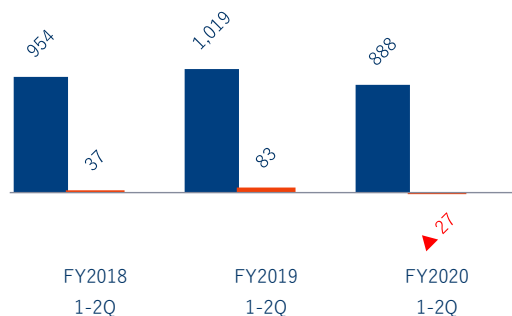
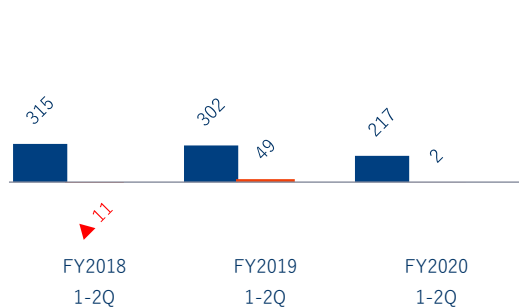


(単位：百万円)

タイ

欧州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



タイ国内販売や日本向けの補修用サスペンションなどの生産量が減少した結果、減収減益。

ルーマニア工場では完成車需要減少によって工場一時稼働一停止し、欧州向けの新車用ウォーターポンプの販売が減少した結果、減収減益。ロシア工場も同様の理由で一時的稼働停止し、国内向け販売減少により、減収減益。

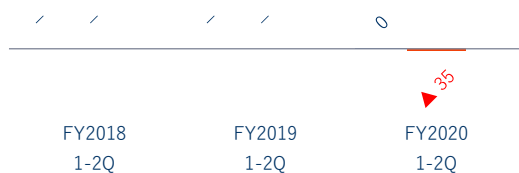
セグメント実績推移④ 豪州



(単位：百万円)

豪州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



豪州国内の主要都市ロックダウンの影響などを受け、本格稼働遅延。

営業利益以下の増減要因 (1-2Q)



(単位：百万円)

	前期実績	当期実績	増減額
営業利益	▲435	▲854	▲418
営業外収益	396	345	▲50
（うち為替差益）	(28)	(171)	(143) (※1)
（うち持分法投資利益）	(76)	(-)	(▲76)
（うちデリバティブ評価益）	(78)	(-)	(▲78)
（うち貸倒引当金戻入）	(53)	(17)	(▲35)
（うち製品保証引当金戻入）	(40)	(2)	(▲37)
営業外費用	407	493	85
（うち金融費用）	(349)	(269)	(▲79)
（うちデリバティブ評価損）	(-)	(184)	(184) (※1)
経常利益	▲446	▲1,001	▲554
特別利益	18	4	▲13
特別損失	122	38	▲84
（うち減損損失）	(115)	(10)	(▲105) (※2)
税引前利益	▲551	▲1,035	▲484
法人税等	83	▲157	▲241 (※3)
少数株主持分損益	▲70	▲356	▲286 (※3)
四半期純利益	▲564	▲521	42

※1
金利・通貨スワップ取引による影響を、為替差益とデリバティブ評価損でほぼ相殺

※2
前期は韓国のAT部品工場及び中国の南通工場の収益悪化によるもの

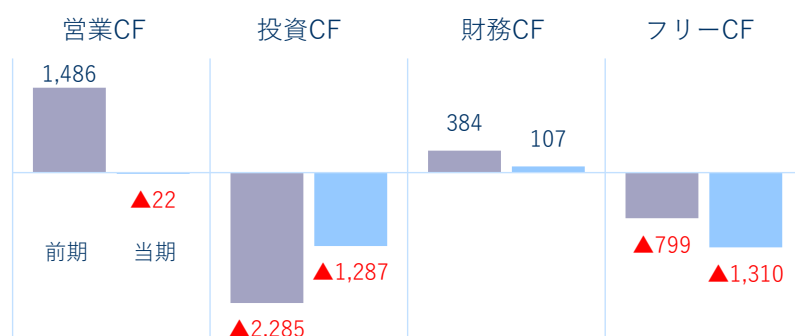
※3
主に韓国子会社赤字の影響

- 9 -

キャッシュ・フローの実績 (1-2Q)



	前期	当期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	1,486	▲22	▲1,508
投資活動によるキャッシュフロー	▲2,285	▲1,287	+998
財務活動によるキャッシュフロー	384	1,067	+683
フリーキャッシュフロー	▲799	▲1,310	▲511



【 当期の主な内訳 】

● 営業CF	
税金等調整前利益	▲1,035 百万円
減価償却費	1,537
売上債権の減少	2,641
たな卸資産の増加	▲1,045
仕入債務の減少	▲2,325
法人税の支払額	▲177
● 投資CF	
設備投資	▲1,487
固定資産売却	20
● 財務CF	
借入金増加	340
社債増加	943
配当金の支払い	▲104

- 10 -

I. 2021年3月期上期実績

II. 2021年3月期通期見通

III. 今後の対応

-11-

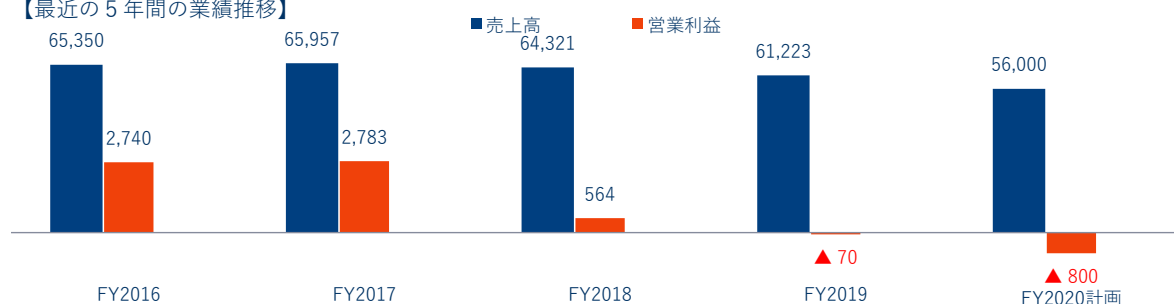
2021年3月期 損益計画



(単位：百万円・%)

	FY2019	FY2020			前期比
	(通期実績)	(1Q-2Q実績)	(3Q-4Q計画)	(通期計画)	
売上高	61,223 (100.0%)	25,162 (100.0%)	30,838 (100.0%)	56,000 (100.0%)	▲5,223
営業利益	▲70 (▲0.1%)	▲854 (▲3.4%)	54 (0.2%)	▲800 (▲1.4%)	▲730
経常利益	▲313 (▲0.5%)	▲1,001 (▲4.0%)	▲299 (▲1.0%)	▲1,300 (▲2.3%)	▲987
純利益	▲910 (▲1.5%)	▲521 (▲2.1%)	▲329 (▲1.1%)	▲850 (▲1.5%)	60
EPS(円)	▲174.21	▲99.54	-	▲162.46	

【最近の5年間の業績推移】

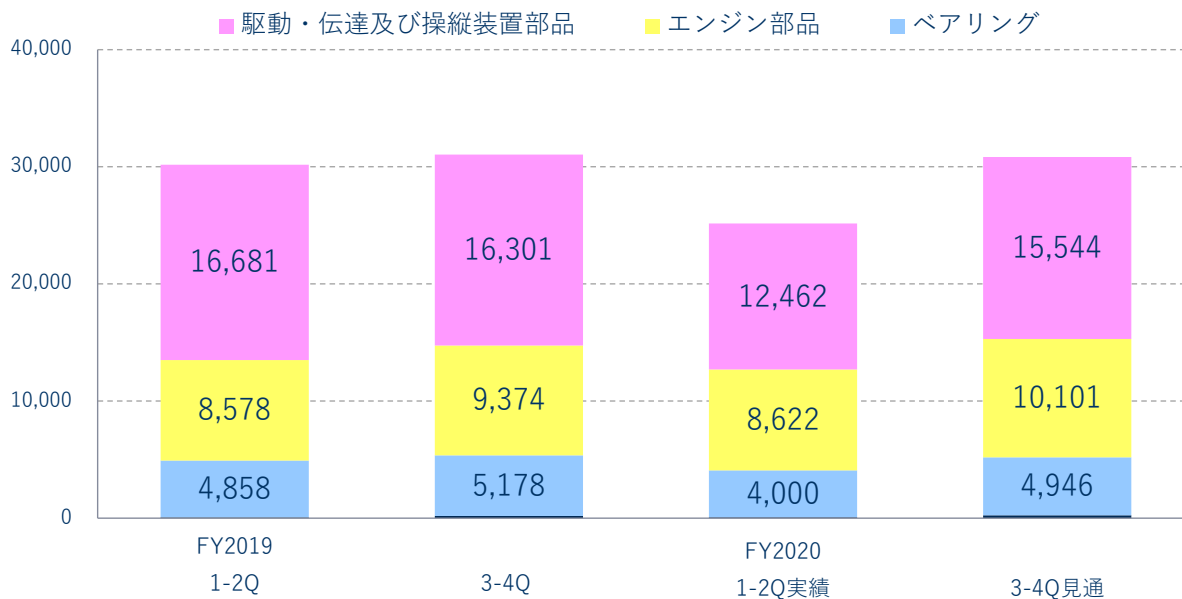


-12-

売上高の品目分類別計画（半期毎）



（単位：百万円）



下期は、駆動系は韓国・中国の新車向けバルブスプールの増加を計画。エンジン部品は、電動ウォーターポンプや米国での販売増加を見込む。ベアリングは、主に韓国からの海外への輸出増加を見込む。

セグメント計画① 日本・米国



※セグメントはグループ各社の所在地による

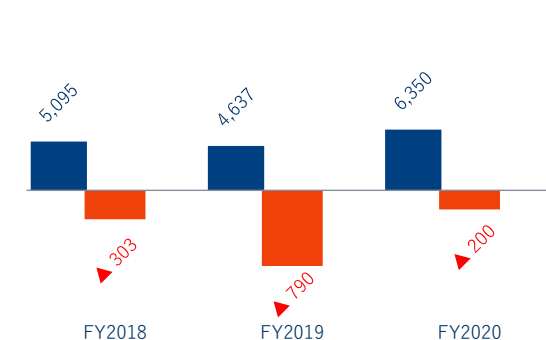
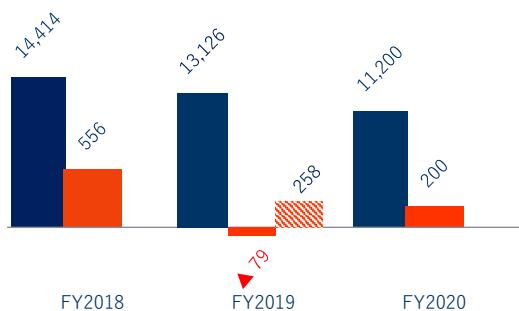
（単位：百万円）

日本

米国

■ 外部売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益(※)
※役員退職金を除いた参考値

■ 外部売上高 ■ 営業利益



下期は新車用・補修用ともに販売回復を見込むが、上期の減収分を挽回するまでは至らず前期比で減収見込み。一方、コストダウンによる収益体制の強化に加え、当期は前期に発生した役員退職慰労金の影響が無く、黒字転換を見込む。

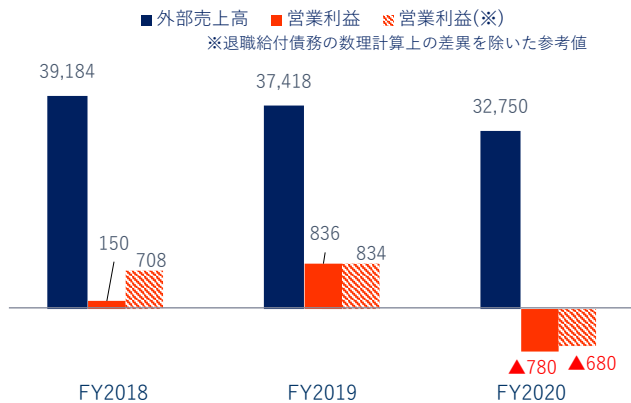
米国市場における補修用部品の販売が順調に推移し、増収見込み。また、販売増加に加えて、当期は前上期に発生した資産評価に伴う費用の影響も無く、赤字幅縮小の見通し。

セグメント計画② 韓国・中国



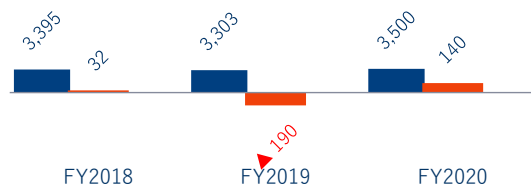
(単位：百万円)

韓国



4～6月を底に下期は売上回復傾向ではあるが、量産計画遅れなどによって新車用部品を中心に完全には戻らず減収見通し。また、販売減少や販売価格の変動などをコスト削減努力で吸収しきれず通期でも赤字見込み。

中国



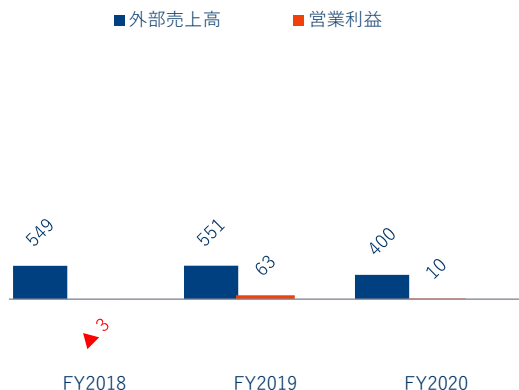
主に新規取引先に向けた新車用バルブスプール販売が増加し、増収の見通し。販売増加に加えて、上期の公的経営支援やコストダウンも貢献し、黒字転換の見通し。

セグメント計画③ タイ・欧州



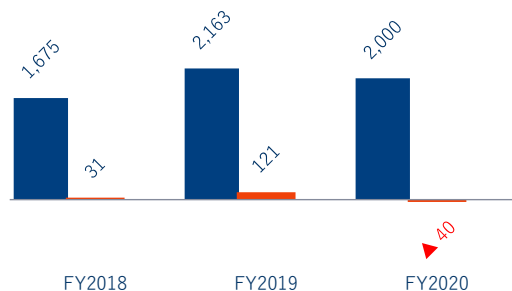
(単位：百万円)

タイ



下期にタイ国内向けや日本向けのウォーターポンプ等が回復する見込みではあるものの、上期減収を挽回までとはいかず、減収減益を計画。

欧州



ルーマニア工場は、下期は販売回復を見込むも上期の落ち込みは取り戻せず減収見込み。また、販売価格の変動や工場移転による固定費の増加を吸収しきれず赤字見込み。ロシア工場も同様に下期やや回復する計画だが通期では減収減益見込み。

セグメント計画③ タイ・欧州



(単位：百万円)

豪 州

■ 外部売上高 ■ 営業利益



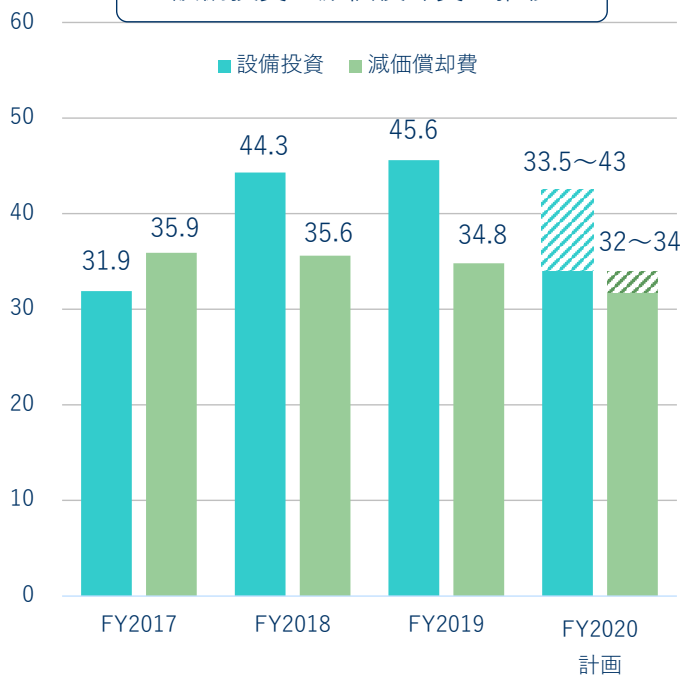
下期より豪州現地での販売活動本格開始し、顧客開拓中。コスト先行の見通し。

設備投資・減価償却費



(単位：億円)

設備投資・減価償却費の推移



FY2020 設備投資計画の内訳

	投資額	主な内容
日本	3.5~6.0	維持・合理化
韓国	20.5~21.5	新規開発・増産等
中国	5.5~7.0	維持・更新等
タイ	2.0~6.0	増産
欧州	2.0	増産
計	33.5~43.0	

I. 2021年3月期実績

II. 2021年3月期計画

III. 今後の対応

- 19 -

新型コロナウイルスの影響

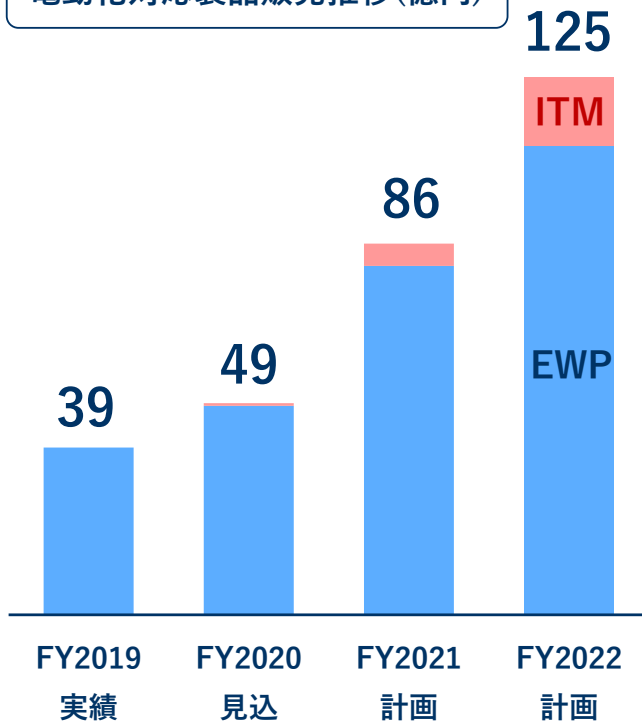
主なセグメントの現状と今後の見通し*

日本	海外補修市場中心に需要回復傾向。
韓国	新車用部品の量産計画遅れなど影響は残るが、下期より国内外で受注回復。電動化対応製品は前年同期比増加。
中国	2Q以降は中国国内需要の復調により受注回復。
その他	北米の補修市場は影響軽微。今後の感染再拡大の影響を注視。

*全ての製造拠点は現在(2020年11月24日時点)通常稼働

- 20 -

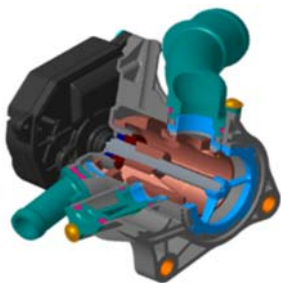
電動化対応製品販売推移(億円)



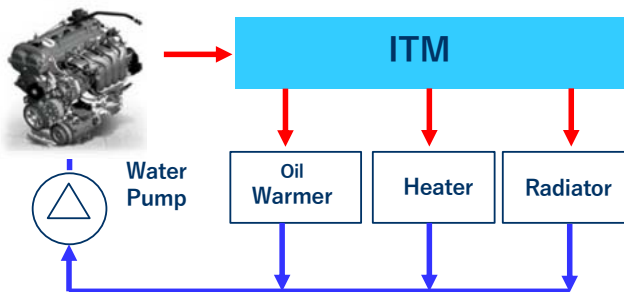
- 電動ウォーターポンプ (EWP)
現状の受注は堅調であり、来期以降も順調に推移
- 新製品 (ITM)
開発は順調に進展し、来期以降の増産準備開始

ITM (Integrated Thermal Management module) 統合熱管理モジュール

ITM外観



Engine



- 冷却水の流量制御部を1か所に統合しコンパクト、効率的に流量を電子制御し、熱管理を効率化。
- 燃費の向上と部品点数削減に貢献。
- 電気自動車にも搭載可能。

- 将来予想に関連する記述については、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 本資料および当社IRに関連するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

＜お問い合わせ先＞
GMB株式会社 経営管理室
電話 : 0745-44-1912
Email : ir@gmb.jp